

平成27年9月

三好雅之 学位論文審査要旨

主査 竹内裕美
副主査 片岡英幸
同 萩野浩

主論文

Relationship between quality of life instruments and phonatory function in tracheoesophageal speech with voice prosthesis

(ボイスプロテーゼを用いた気管食道発声におけるQOL測定具と発声機能との関連)

(著者：三好雅之、福原隆宏、片岡英幸、萩野浩)

平成27年 International Journal of Clinical Oncology

DOI:10.1007/s10147-015-0886-4

参考論文

1. モズク由来高分子フコイダンの腸蠕動に及ぼす影響

(著者：三好雅之、阿部直、笠木健、平松喜美子、池田匡)

平成25年 米子医学雑誌 64巻 69頁～77頁

2. 後輩学生への学習支援が4年次看護学生に及ぼす効果

(著者：三好雅之、谷村千華、野口佳美)

平成26年 米子医学雑誌 65巻 119頁～127頁

審 査 結 果 の 要 旨

喉頭全摘出術によって失われた発声機能を再獲得する方法として、近年シャント発声法が普及してきている。シャント発声法を用いている人の発声機能が、どのようにQOLに影響しているかは分かっていなかった。本研究は、シャント発声法を用いている人の包括的QOL、発声関連QOLと発声機能の関連を検討した初めての報告である。研究結果から、発声機能検査の声の強さとQOLの間に有意な相関があることが明らかになった。シャント発声による音声機能のリハビリテーションで、「声の強さ」を客観的な指標としてQOLの向上を目的としたリハビリテーションや生活指導に使用できる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。